

【応募用紙】

1 応募者概要

事業所	名 称	(ふりがな：かぶしきがいしゃ あべつくす けいひんとうかいししゃ) 株式会社アベックス 京浜東海支社		
	代表者役職・氏名	支社長 伊木 伸二	従業員数	35名
	所在地	〒224-0044 横浜市都筑区川向町891		
	ホームページアドレス	http://www.apex-co.co.jp		
	事業開始年月	1963年2月	環境への取組を開始した年月	1996年
	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・飲料自動販売機による中身商品の販売 ・カフェサーバー事業 ・レストランの経営 		
	環境への取組について過去に受けた表彰等	<ul style="list-style-type: none"> ・「資源循環技術・システム表彰」においてCJC会長賞受賞(平成18年度) ・「間伐・間伐材利用コンクール(製品づくり部門)」において「間伐推進中央協議会会長賞」を受賞(平成25年度) ・「ウッドデザイン賞」を受賞(平成27年度) 		
本社	名 称	株式会社アベックス	所在地	愛知県大府市柵山町2-418
	総従業員数	1,550名	資本金	1億円

2 環境に対する企業理念の設定、管理体制

(1) 基本理念・自己宣言等

- ①経営理念：「環境保全活動に最善を尽くし、地球環境との調和を図る」
- ②全社行動宣言：「私たちは、地域社会に貢献し信頼を集めます」
- ③環境部の中期計画目標：「お客様との価値の共有化を図るために、環境経営を推進する」

(2) 環境マネジメントシステム関連

	取組等の名称	詳細内容
ア 認証等	ISO14001:2015	1999年に4サイトにて、2002年には全社にて認証を取得しました。2016年には、2015年版に移行しています。
イ 組織体制	環境部 環境保全推進員 各管理担当者	本社に環境部を設けています。 各支社においては、支店長や所長が部署の長となり、支店・営業所内にそれぞれ環境保全推進員を設けるほか、廃棄物や薬剤等の各管理担当者を設けています。
ウ チェック機構	内部監査 外部による審査	毎年1回、全国の拠点を対象に20名～30名の内部監査員による監査を行います。不適合が発見され次第、速やかに是正を行い、再発防止に努めています。また、毎年、ISO14001認証機関による審査を受けています。
エ その他の取組	地域における環境保全活動 環境関連や防災関連イベントへの協賛・参加	順法はもちろん、事業所周辺の清掃をはじめ、地域における環境保全活動 (→詳細・補足資料3をご参照ください。) グリーン購入の推進、環境教育の実施

(3) 取組結果等の公表・広報

- ・「サステナビリティレポート(環境・社会報告書)」の発行(毎年7月発行)
- ・ホームページでの公表
- ・随時プレスリリース等を実施

3 環境に配慮した製品や技術開発、サービス等の提供・導入

製品・技術・サービスなどの名称	詳細内容
環境配慮型自動販売機の開発・市場展開	<p>専業オペレーターとしては唯一自社内に開発部門を有し、製造から廃棄・リサイクルに至るライフサイクル全般にわたる環境負荷低減に努めた、グリーン購入法に適合した独自の自動販売機開発を行っております。</p> <p>既存機に関しては、より負荷の低い機種への入れ替えを行い、市場全体の環境負荷低減に努めています。</p> <p>(→詳細・補足資料1 上段をご参照ください。)</p>
間伐材紙カップの使用	<p>「日本の森林の健全な育成」を目的に、2013年に自動販売機オペレーター業界で初めて間伐材を含む国産材100%紙カップの使用を開始しました。</p> <p>(→詳細・補足資料1 下段をご参照ください。)</p>
ライフサイクル思考	<p>原料の調達や製造・物流・販売などサプライチェーンの各過程における環境配慮の取り組みに機械・商品・包材メーカーとともに取り組んでいます。</p>
サスティナブルコーヒーの展開	<p>自社内の商品開発部門が、時にはコーヒー生産国・農園に足を運び、サスティナブルなコーヒーの調達に取り組んでいます。</p> <p>2001年から「有機栽培生豆100%コロンビア」の展開、2010年からレインフォレストアライアンス認証農園の豆を取り扱っています。</p> <p>(→詳細・補足資料2をご参照ください。)</p>

4 事業活動において環境に配慮している取組、社会貢献活動

※取組や活動を開始した年度も記載してください。

	取組や事業の名称	詳細内容
(1) 省エネ・CO2排出量削減の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナル自販機の開発展開 ・節電・節水への取り組み ・使用するコピー用紙枚数の削減 ・エコドライブの奨励 ・太陽光発電パネルの設置 ・自動販売機オーバーホール 	<ol style="list-style-type: none"> ① 「オリジナル自販機の開発と展開」は上記「3」参照 ② 事務所内の電気使用について、まめなスイッチオフやクールビズ・ウォームビズの奨励 ③ 書類の電子化奨励や、印刷前の確認による失敗の未然防止や、必要枚数のみの印刷呼びかけ ④ エコドライブ教育の実施 ⑤ 大府本社社屋への太陽光発電パネルの設置 ⑥ 1966年より自動販売機の整備を開始し、長寿命化・省資源化・廃棄物の削減に努めています。(1976年、整備部門が「日本ベンダー整備株式会社」として独立) ⑦ 地球温暖化対策の新しい国民運動「COOL CHOICE」に賛同 <p>※①は1961年～ ※②～④は1996年～ ※⑤は2011年～ ※⑥は1966年～ ※⑦は2015年～</p>
(2) 廃棄物削減の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・4Rへの取り組み ・自前のリサイクル施設の運営 ・コーヒー残渣リサイクル ・自動販売機オーバーホール 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的な3Rに加え、「Recover」を4つめのRに掲げ、活動しています。3Rは1996年からの取り組み、「Recover」は、2001年より開始。 ・2004年にリサイクル施設「中部リサイクルセンター」を開設。中部地区の紙カップの固形燃料化(RPF化)をはじめ、空き容器(缶・ペットボトル・ビン)のリサイクル体制を整えることを目的に運営しています。 ・エリアに応じて、肥料化、炭化、熱回収を行っております。 <p>(・オーバーホールについては、上記参照)</p>

(3) 生物多様性 保全等の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・間伐材紙カップの展開 ・地産材使用促進の啓発 ・サスティナブルコーヒーの展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の健全な森林の育成（＝生物多様性保全）のため、紙カップ原紙に間伐材を使用しています。間伐材マークやデザイン（※添付資料参照）により、全国で年間約4億個の紙カップ使用というボリュームを活かし、間伐材利用促進の啓発活動にも努めています。 ・地産材を活用したラッピング機「自動販売木」という取り組みより、地産材活用啓発にも努めています。（2013年より） ・コーヒーの生産国が集中しているコーヒーベルトが生物多様性の宝庫であることから、レインフォレストアライアンス認証農園の豆や有機栽培による豆を使用することにより、その土地の生物多様性を保全するとともに、生産者保護にも努めています。（有機栽培生豆の使用は2001年から、レインフォレストアライアンス認証農園の豆の使用は2010年から） ・2015年より健全な水循環・水資源の重要性について取り組む環境省の「ウォータープロジェクト」に参加しています。
---------------------	---	---

(4) 社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> ・「よこはま森の楽校」における協賛 ・はまっ子未来カンパニーの一環の出前授業の実施 ・環境絵日記 ・自然観察の森での外来樹伐採 ・事業所周辺における清掃活動 ・BOSAIカフェへスリーブ提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度より横浜市環境創造局主催の「よこはま森の楽校」において、春咲きの花の種プレゼント（先着200名様）を実施。今年も「街を花と緑でいっぱい」のポスターを掲げ、3回目の参加をしてまいりました。 ・今年度初めて、横浜市立さわの里小学校（磯子区）において5年生を対象とした環境・防災の出前授業を実施。そして、児童の皆さんには、そこから学習を深めてもらい、「よこはま森の楽校」での間伐材に関する展示用パネルを作成してもらい、当日会場内に展示しました。 ・今年度初めての取り組みとして、横浜市資源リサイクル事業協同組合が主催する環境絵日記に参加。地域企業賞としてまちづくりセンターを通して繋がりのある若葉台地区の小学生を表彰しました。 ・2018年2月に横浜自然観察の森において、外来樹木の伐採を行う予定です。 ・1996年より、事業所周辺の定期清掃を実施しています。 ・本年10月1日に横浜市民防災センター内にOPENしたBOSAIカフェへ啓発活動用としてスリーブを協賛しています。
------------	--	---

5 成果を上げている取組や先駆的・模範的な取組・事業

取組や事業の名称	詳細内容
環境保全活動	<ul style="list-style-type: none"> ・自動販売機オペレーター業界において <ol style="list-style-type: none"> ① ISO14001の認証取得 ② 紙カップリサイクルシステム構築 ③ 間伐材紙カップの使用 ④ コーヒー農園まで足を運び、生産地を確認等、先駆的な取り組みをしております。
災害時支援	<ul style="list-style-type: none"> ・2011年3月11日の東日本大震災発生直後から、宮城県の大規模避難所6カ所に計8台のカップ式自動販売機を設置し、その自動販売機を「復興支援自販機」として、避難所生活を余儀なくされている方々の心と体を少しでも温めるべく、コーヒー、ココアなど温かい飲み物を提供させていただきました。この「復興支援自販機」での経験と教訓を活かし、日本初の「災害対応型カップ自販機」を誕生させました。「災害対応型カップ自販機」は、災害協定により設置いただいている紙カップ式自動販売機から一定期間飲料を無料でご提供するシステム。非常時には、湯・水の提供も可能で、粉ミルク用や薬の服用水としてもご利用いただくことができます。これまで、山梨県の豪雪（2014年2月）、徳島県の大雨（2014年8月）、広島県の土砂災害（2014年8月）、茨城県の鬼怒川決壊（2015年9月）、熊本地震（2016年4月）などで支援してまいりました。横浜市内でも各企業や病院等と「災害時における支援協力に関する協定書」が締結されており、10月には横浜市民防災センター「BOSAI CAFE（防災カフェ）」とも協定を締結しております。

6 審査にあたり、最も注目してもらいたい取組、PRポイント

※最も注目してもらいたい／評価してもらいたい取組や、これまでの項目に当てはまらないPRポイントについて具体的に記入してください。

- ・地道ながら堅実な環境保全活動
- ・これまでの「CSR」ではなく、「CSV」を掲げ、自己満足に終わらない環境・社会活動に努めています。
- ・弊社では、横浜で学ぶ子供達が未来を生きていく力をつける為に学校と社会が一丸となったキャリア教育賛同し、取組みを行っています。
今年度は横浜市教育委員会連携事業として登録している「はまっ子未来カンパニープロジェクト」の一環で横浜市立小学校にて、カップ式自動販売機から環境や防災について学ぶ出前授業を実施。
1回の授業で終わるのではなく、その後の森林での宿泊学習や地域と共同で行う防災活動につながるよう、学校関係者と打合せを重ね、授業内容を工夫しました。
今後とも積極的にこうした活動を継続していきたいと考えています。
- ・上記活動を行った横浜市立さわの里小学校の児童のみなさんに、出前授業と宿泊学習で学んだ事の成果発表の場として、以前より参加していた「森の楽校」の展示ブースを提供。
展示用パネルを作成していただいたことが「よこはま森の楽校」にもつなげることができ、このようなループになる活動を目指して今後とも取り組む所存です。

3. 環境に配慮した製品や技術開発、サービス等の提供・導入

1) 環境配慮型自動販売機の開発・市場展開

アペックスは、専門オペレーターとしては唯一自社内に開発部門を有し、グリーン購入法の基本方針に示される『判断の基準』に適合した、独自の自動販売機開発を続けています。お飲み物をお買い上げいただくお客様にとっても、自動販売機をオペレートするオペレーターにとっても使いやすく、そして、製造から廃棄・リサイクルに至るライフサイクル全般にわたる環境負荷低減に努めた、独自の自動販売機開発を今後とも継続して行います。



APEX85QVR(2013年発表)

ムダな消費電力を押さえ環境に配慮した業界最省エネ機。タイガー魔法瓶株式会社と共同開発した“真空断熱ジャケット”を搭載。保温機能を格段に向上させ、省エネ法のトップランナー基準を大幅にクリア(134%)しました。

さらに、“ピークシフト・カット機能”、“スリープモード機能”など充実した省エネ機能で、ご利用状況にあわせた最適な省エネ運転を実施します。

- ①真空断熱ジャケット採用により、保温機能が大幅アップ
- ②ノンフロン冷媒
- ③CO2排出量70%削減(当社小型従来機比)



弊社の開発のあゆみや紙カップ式自動販売機の内部構造をWebで公開しています。

アペックス 開発のあゆみ

※歴史にわたるオリジナルマシン相向の歴史をご覧ください。



YouTube APEX corpCHANNEL

3. - 2) 間伐材紙カップの使用

4. 事業活動において環境に配慮している取組、社会貢献活動 -(3)-

アペックスグループは、これまで国産材100%の紙カップを利用しておりましたが、平成25年より業界で初めて、9oz・12ozサイズの紙カップを間伐材を含む国産材100%の使用した紙カップへ変更しました。



カップに描いたデザインにもこだわりました。コーヒーを飲んでリラックスしながら眺めるうち、間伐材が森林保全にいかにかがなんとなくわかる。そんな気軽さをかたちにしました。

よく見ると、森林作業をする人間と一緒に、キツネやリス、ウサギ、トリなどの動物も小さく描かれているのがわかると思います。1度だけでなく、2度、3度とカップを手にとっていただいたときにも新たな発見があるよう、工夫しております。



3. 環境に配慮した製品や技術開発、サービス等の提供・導入
4. 事業活動において環境に配慮している取組み、社会貢献活動 -(3)-

1) サステナブルコーヒーの展開

コーヒーの原産地は、赤道をはさんで北緯25度・南緯25度の間の熱帯地帯にある約70カ国に集約されており、このコーヒー栽培に適した気候、土壌をもつ地域のことを、「コーヒーベルト」と呼んでいます。



コーヒーベルトは、コーヒーの産地であると同時に、多くが発展途上国であり、熱帯雨林をはじめとする生物多様性の宝庫でもあります。このことは、言い換えれば、コーヒー農園そのものが、生物多様性を維持する場でもあることとなります。

消費国のわたしたちがおいしさを楽しめればよいというのではなく、現在のことだけではなく未来のことも考えた上で、生物や自然環境、生産者の人々の生活を良い状況に保つことを目指して生産・流通されるコーヒーの総称を「サステナブルコーヒー」といいますが、商品を選ぶ時、それが環境に配慮したものであるかを検討することが、コーヒー農園の保全になり、コーヒー農園が包括する生物多様性の保全につながります。

アペックスでは、これから先もずっとおいしいコーヒーをお届けするために、そんな誰もが日常的にできる環境保全活動を推進し、展開するコーヒーにもサステナブルコーヒーを取り入れています。

有機栽培生豆100%使用コロンビア

有機JASマークの付されたコーヒー豆を100%使用



イパネマ農園豆30%使用ブラジル

レインフォレスト・アライアンス認定のイパネマ農園で生産されたコーヒー豆を30%使用



レインフォレスト・アライアンス認定マーク



4. 事業活動において環境に配慮している取組、社会貢献活動

3) 生物多様性保全等の取組「地産材使用促進の啓発」

弊社では間伐材紙カップを使用し、地産材シートによってラッピングしたカップ式自動販売機を「自動販売木」と名付け、全国に“植林”中です。

横浜市内の「自動販売木」には神奈川県産材をというように、「自動販売木」には47都道府県の地産材を活用することができるのが特長です。



※自動販売木はアペックスの登録商標です。



林野庁「謹賀新年コーナー」展示に協力(左写真)。国産材の間伐材を極薄0.15mmに加工し、紙のように折ることのできる「折り樹」を使用し、古来よりめでたい物の象徴とされる「鶴と亀」を折りました。また、横浜市内の小学校にて行った出前事業でも児童へ「折り樹」を配布し、木のぬくもりを感じてもらいました。

4. 事業活動において環境に配慮している取組み、社会貢献活動

4) 社会貢献活動

●「よこはま森の楽校」における協賛



ポスター



弊社展示ブース



花の種配布

●環境絵日記

今回地域企業賞として、若葉台小学校の児童の作品「きれいな自然と美しい街」を表彰しました。若葉台小学校の近隣にも、弊社の自動販売機がいくつか設置されており、私たちも仕事柄“水”とは切っても切れない関係上、都市と自然の調和がとても良く表現されている作品を選考。来年度もこの活動に取り組みたいと思いました。



●「はまっ子未来カンパニープロジェクト」への協力

横浜市が取り組む「自分づくり教育(キャリア教育)」の一環「はまっ子未来カンパニープロジェクト」(子供たちのキャリアプラン)へ協力。身近なものから「環境」や「防災」について学ぶきっかけ作りとして体育館へ自動販売機を持ち込み、出前授業を実施しました。



飲料容器について



紙カップの歴史



カップ式自動販売機の仕組み



災害支援



間伐材紙から考えた環境問題

10月12日に授業を行い、10月末に足柄の宿泊学習で森林に触れ学んだ事をパネルにまとめてもらい、11月19日の「よこはま森の楽校」にて展示しました。



←横浜市立さわの里小学校の児童が作成したパネル



さらに11月25日の学内発表会において、5年生が授業からさらに自分達で調べた事を発表し、その場へパネル等の貸出を行いました。